

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年 11月 8日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3472501349		
法人名	医療法人社団 光誠会		
事業所名	グループホーム サンハートホーム		
所在地	東広島市福富町久芳3694-12 (TEL) 082-430-1321		
自己評価作成日	令和4年10月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyoNoCd=3472501349-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyoNoCd=3472501349-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1番8号
訪問調査日	令和 4年 11月 8日 (火)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

地域密着型の施設の利点を活用して、地域の方がいつでも気軽に立ち寄れる場所であり、また、入居者の方には、明るい笑顔が絶えない暖かい施設で安心して生活ができるように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム サンハートホームは、東広島北部の田園の町に位置し、国道沿いの利便性の良い自然豊かな環境の下で、地域資源と関係を築きそれらに支えられ、地域の方とふれあい、地域に根ざした事業所となっている。利用者の方が今まで暮らして来られた、我が家と同じ生活リズムで安心して暮らせるよう、一人ひとりの生活歴の中から、興味ある事、好きな事を探し役割が持てるようにケアをしている。残存能力を活かした生活リハビリを中心にコロナ禍であっても行事や、レクレーションを楽しんでもらえるよう計画している。3食の食事は手作りで、事業所で収穫した野菜、果物、近隣の方の野菜の差し入れは、新鮮な旬の食材で美味しい食事が作られ、利用者の方、職員は同じテーブルで食事を楽しんでいる。おやつ作りは、畑の果物でジャムを作りカップケーキになり、利用者の楽しみになっている。ドライブに出かけ、サービスエリアの食事を楽しまれたり、桜を見に出かける等、外出で気分転換をしている。利用者に対して家族のような気持ちで声をかけ、利用者、職員が楽しく過ごしているグループホームです。

グループホーム サンハートホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入居者様、お一人お一人の思いに添った日々の過ごし方を考慮して、いつまでもご自分の事が自分で出来、また他入居者様との関わりが持てるように支援を行っている。	グループホームサンハートの理念「ご入居者のご自宅での今まで通りの生活を身体的、精神的に続けられるように致します」をリビングや事務所に掲示し、会議時にも触れている。職員は理念を共有し、日常生活の中で意識して関わり見守り支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している。	入居者様が地域との繋がりが持てるように、この時期ですが、地域の行事等には、入居者様とともに積極的に参加するように努力しています。	散歩に出て、地域の方と出会うと挨拶を交わしている。3年ぶりに開催されたアクアフェスタに利用者が作った作品を出品し、展示する等地域行事に参加している。近くのお寺の「集い場」に参加し地域の方、子供達と一緒に交流している。福富町・豊栄町・河内町の各事業所が参加して「さんさん会議」を開催し交流している。又、認知症カフェ「サンSUNカフェ」に、参加し地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の交流の場所、イベントなどに職員が協力できることがあれば参加し、協力するようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回の頻度で家族・包括支援センターの職員・民生委員・本部長・管理者・ケアマネの出席で開催しています。皆様の意見・要望聞いて、それらをサービスの向上に生かしています。	2か月に1回運営推進会議を家族、民生委員、地域包括支援センター職員、本部長、管理者、ケアマネの出席で開催されている。コロナ禍で時間短縮し、事業所の活動報告、サービスの状況、ヒヤリハット等について話し合い、出席者から意見や要望を聞きそこでの意見を運営に活かしている。書面での開催を2回行い報告書を作成して送付し、皆様からの助言を職員は受取り共有している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市のケア会議研修等への参加・オレンジ交流会・北部地域施設連携会議等開催があれば参加し、情報収集しています。市町の担当者に相談事や疑問点等の説明を受けています。	市役所へは認定が下りた時の相談、書類提出の時は電話で担当者に聞き、他の職種の方にも相談をしている。地域包括支援センターとは入居状況、北部サンサン会議からの空き状況を聞く等情報収集をして、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	不安を取り除く声掛けや見守り等を行うとともに入居者様の安全を優先しています。やむを得ず玄関に施錠していますが、家族の了解のもとで行っています。	身体拘束について3か月に1回、年間計画を立て初めの基礎から学び、自己意識を高めている。身体拘束適正委員会を3か月に1回開催し、事例を挙げ、出席者からの発言を検討している。発言内容は議事録に記録している。施錠は事故防止の為されているが、家族の了解を得ている。外に出たい方があれば職員と一緒に庭に出て散歩して気分転換をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修を受けて取組みに強化をしています。言葉のかけ方、対応の仕方等、職員一人一人が虐待に持ってにゆうく対する認識を持って入居者のケアに当たっています。		

グループホーム サンハートホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	必要があれば、活用できるように支援します。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居者様やご家族の方に理解・納得していただけるように説明を行っています。また、改正等があった場合は都度説明・了承を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を玄関入口に設置して、いつでも意見・不満・苦情がえるようにしている。また苦情窓口を設け第3者委員会を設置している。日頃から入居者様やご家族との話しやすい関係づくりを心掛けて実践しています。	家族からの要望に添えるよう、電話、メールで聞き、利用料を持って来られた際、お話を聞いている。事業所からは、「サンハート便」を送り、利用者の様子や行事等お知らせしている。利用料の値上げ、事業所にお金を置かない等アンケートの意見や要望を反映している。家族とは連絡を取り合い信頼関係を築いている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の職員会議で職員からの意見・提案また気づき等を話し合っている。また、ケアプランや日常のケアの方法などの検討等は随時検討を行い今後に役立つ内容の意見交換を行い実践しています	職員会議で意見、提案、気づきを話し合い、全員の意見を徹収している。例えば書類の見直し物品の事等情報を共有し、リサーチをかけて意見交換をして動き、運営を密にしようと務め、働きやすい環境作りを目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務態度・介護状況を把握している。職員個々との関係づくりをしながら声掛けや激励をするようにしています。働きやすい職場づくりにと心掛けています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	講習会などへの参加を勧めている。受講後は皆が情報を共有出来るように職員会議などの機会 で伝達・報告をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他のグループホーム・特養への訪問・ケア会議への参加等交流を通し情報収集をしてサービス向上の取り組み・他事業者とのネットワークづくりをしています。		

グループホーム サンハートホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	必要な支援があれば提供する様に、しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご利用開始前の情報を集めご家族の方ともよく話し合い、ご希望や疑問な事をお聞きして対応することで安心して預けて頂けるよう信頼関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談・面談時にはしっかりと話しを聴き、必要な支援を見極める、当施設を含め、他のサービスの紹介も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々の生活の中で入居者様から学ぶ事も多く、都度感謝の気持ちを伝えています。職員は入居者様の尊厳を大切にしている気持ちを持ち、言動に気をつけるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者様の状況などを面会や連絡がある時には、常に話しています。また、状況に変化があった時等、報告・相談をしながらいつまでもご家族と共に支援をしている姿勢を持ち、入居者様とご家族の関係を大切にしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今、コロナ渦の関係で面会ができていない状況でガラス越し・電話等による方法を取らせて頂いています。今迄の様に復活できればと思います。	面会が制限される中で家族、知人の面会方法は、ガラス越し面会や、電話で行っている。今年の敬老会では、長年ボランティアで野菜や花を差し入れて頂いた方を招待し、感謝状を贈呈している。家族の葬儀、1周忌に2時間程参加して、お参りされた方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食堂での座る位置などの配慮を行い、関わり合いを持ちながら快く過ごして頂けるようにしています。居間・食堂で出来るだけ一緒に過ごして頂き、入居者様同士が交流できるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	いつでも相談が出来やすいように声を掛けるようにしています。		

グループホーム サンハートホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は、入居者様の日々の生活の中での会話や表情・行動から思いや希望・意向を把握するように努めています。	家族から入居前の利用者の生活の状況を聞き、その方の生活リズムを尊重して支援し、日々の生活における行動や会話から思いや意向を聞き取り、把握して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者様ご本人・ご家族、以前利用されていた事業者等からの情報収集を行い、入居前の生活状況等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	1日2回の申し送り・引継ぎの際に職員で情報を共有し、現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプラン更新時や入居者様の状態に変化があった時等、必要に応じて職員で話し合いを持っています。職員会議で現状の確認・モニタリングを行い毎月1回ケアマネがモニタリング記録をしています。また、全職員の意見・入居者様やご家族の思い等を介護計画に取り入れて作成しています。	日常生活の中で利用者の思い、家族の意向を把握し毎月モニタリングを行い主治医の往診時の情報を入れ、職員からモニタリングの情報を聞き、担当者会議は6か月に1回行っている。3か月～6か月に1回、若しくは状態変化があった場合、介護計画の変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の変化、体調の変化それに伴うケア方法の変化等個別記録に記入しています。また記録からの情報を職員間で共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者様やご家族の希望で受診困難な際の受診同行を行っています。主治医の往診を希望されている入居者様には往診をして頂いています。また、理容院からの出張カット等の利用しています。個々の日常生活に必要な物品の購入が困難な状態の入居者様には買物の支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	現在は、ボランティア様の受け入れが難しく、色々な行事も取り止めになり、子供たちとの交流もかなわず、声がかかれば状況などを見て参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者様の变化等の記録をかかりつけ医受診の際、持参してもらっています。本人・家族が希望する医療機関・医師に受診や往診が出来るようにに支援しています。	利用者、家族の希望の医療機関に受診されるよう支援している。全員主治医の方がおられ、3名の利用者は往診が月1～2回あり受診している。専門医には、家族に相談して対応している。家族、職員で受診対応、家族対応で受診する場合がある。歯科受診は職員対応している。口腔衛生管理指導で月に1回指導に来られる歯科衛生士の指導を職員が受けている。	

グループホーム サンハートホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期受診時には体調の報告やその他の相談をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたときには安心して治療に専念していただけるように居室の確保(短期利用での使用)を行います。また入院中の状況や今後の事の状態把握の為に、入院先との連携を取っています。退院時には、現状確認や退院後のケア等の情報を確認したり相談をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	早い段階から話し合いを行い、関係者全体の方針を共有して支援に取り組んでいます。また、家族の意向を聞きながらホームで出来る事の確認や緊急時の受け入れ態勢を出来るだけ整えるように努めています。	入居時、重度化された場合の、あり方を利用者、家族に説明し、事業所で出来る事、出来ない事をお伝えし、終末期の意向を確認している。急変になり医療が必要になった場合、緊急対応で終末期を迎える事なく、医療施設や他施設に移られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急講習・心肺蘇生法などを受講し、急変に対応できるようにしています。また、緊急時の救急車要請の方法の伝達・訓練・緊急連絡先網の活用などの情報を職員で共有しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練は消防署立ち合いのもとに指導を受け実施しています。自施設での自主的な訓練も実施しています。施設内に消火用バケツや懐中電灯等を設置し、週1回確認を行っています。	消防署指導で年2回避難訓練をしている。利用者も参加して、通報、避難、初期消火を行い水消火器を使い実施している。事業所内にはバケツ、金づち、懐中電灯を設置し、定期的に確認している。職員全員が周知し災害対策を行っている。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様のプライドを尊重し、プライバシーを損なわないような言葉かけや対応に注意しています。特に排泄や失禁時の対応・入浴時の対応には十分に配慮を行っています。	年間計画の研修で接遇、プライバシーについて徹底している。一人ひとりを尊重するよう、入浴、排せつ時の声掛けは自尊心を傷付けない配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中で職員が入居者様とのコミュニケーションを十分とり、思いや希望が表出できるように努めています。いろいろな事に関して自己決定が出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の生活時間の流れは入居者様のペースで過ごして頂いています。職員が声掛けや提案はしますがご本人の希望に沿った過ごし方を支援しています。		

グループホーム サンハートホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	普段使用しておられる化粧品やブラシ等、手になじんだものを使って頂いています。また、衣類をご自分の好みで選ばれて着られる方もおられます。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員も一緒に食事をとり明るく楽しい雰囲気を出しています。入居者様の好みの物、希望されるものを取り入れたり、旬の食材を使用する等季節感を出しながら毎食手作りの物を提供しています。温かいものは温かく提供できるように努めています。	3食手作りで利用者の好みを聞き、季節を感じられる事業所の菜園で採れた野菜、果物、近隣の方からの差し入れの野菜、職員が持って来られる新鮮な野菜を使い調理している。食事形態は、とろみ食等対応して提供している。年間の行事食は、お節料理～クリスマスまで作られている。おやつ作りでケーキ、おはぎ、二重焼き、セリー等手作り感のあるおやつが提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日の摂食状況や水分摂取量の把握をし、記録しています。個々の摂食状況に応じた食材の形状・量・温度等に配慮して完食できるように努めています。また、必要な方には嚥下状態に応じ、トロミをつけたものを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食時後に個々に応じた方法での口腔ケアを実施しています。毎日の口腔ケアの状況をチェックシートに記録しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自立の方・声掛け・サインを見て随時誘導・定期誘導等個々の排泄状況に合わせた排泄ケアを実施しています。排泄状況の記録をしています。	自立の方、定時誘導の方、随時対応に心掛け支援している。初めから職員の指示ではなく、利用者自身でトイレ使用されるよう、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日の食事状況や水分摂取量・排尿回数・排便の確認を記録しながら排便の有無・形状等に注意して便秘気味の方には水分補給や排便コントロール(指示の物)を行い、スムーズな排便が出来るようにしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は個々に週2～3回の対応でしか行えていませんが、入浴時にはゆったりと入浴して頂けるように十分時間を取り楽しんでいただけるように心掛けています。状況によってはシャワー浴の場合もありますが清潔保持と気持ち良さを感じて頂けるように努めています。	入浴は週に2～3回以上利用者の意向に沿って、個別対応している。浴槽では、肩まで浸かりゆったりした入浴で職員と歌を歌ったり、話をしたり、ご機嫌で楽しませている。体調によってはシャワー浴、清拭、足浴もあり、入浴剤の使用の時もあり楽しい入浴になるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	食堂で過ごされながら休息を取られる方、居室に戻られて過ごされる方、それぞれの過ごし方を尊重しています。夕食後は、それぞれのペースで居室に戻られるのでそれに合わせた就寝ケアを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者様の病気を把握して主治医からの薬の変更の指示や病状の変化などを申し送り、記録を取って服薬支援を行っています。また、薬の変更があった際は変化等様子観察を行い、必要な時は主治医への報告・相談をしています。		

グループホーム サンハートホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の楽しみや得意な事を把握して自信を持って、取り組めるレクリエーションの提供や季節の行事を取り入れたり、手作りおやつやドライブ等で気分転換を図ったり張り合いのある時間の提供に努めています。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	周辺の散歩やドライブ、地域の行事への参加等外出支援を行っています。また、ご家族に協力頂いて外出や会食に出かけられていましたが今は、制約させて頂いています。	事業所の庭は広く、散歩をしたり、果樹や野菜を見て四季を感じ生まれ、玄関前では日光浴や、レクリエーション活動をして気分転換をしている。地域の方と交流し、アクアフェスタに参加し作品を出品されている。ドライブに出かけ、サービスエリアで利用者の好きな食事を取り喜ばれている。春には白竜湖の桜を見に行きしみな外出支援をしている。	コロナ禍で、外出は困難になっていますが、今後も庭先での日光浴や外気浴をする事やドライブにて、近場を散策する事を今後も継続される事を期待します。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族に相談の上、施設で管理しているご本人様の所持金で必要物品の購入や、受診時の支払い等を支援しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば電話を掛けることや、手紙を出される事への支援を行っています。			
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関周りや居間のテーブルに季節の花を飾り（時には近所の方から頂いた花）、暖かくつろげる雰囲気づくりを心掛けています。畳の部屋もあり自由に過ごして頂ける空間があります。季節や天気わかる大きな窓のあるサンルームでは日向ぼっこや談笑してもらっています。各居室のトイレや共用スペースのトイレの匂い等には、消臭剤などを利用して不快にならないように配慮しています。食事の支度の匂いや音等日常生活を感じてもらえるようにしています。	リビングは広く、玄関からは朝日が差し込み、サンルームでは日向ぼっこをしている。利用者が作られた作品が飾られ、リビングに来れば皆さんと一緒にテレビを見たり、自分の好きな事を選んで自由に過ごす事が出来る生活の場になっている。台所の匂いや音も感じる事が出来、空調も管理され、一年を通して適温で快適に過ごしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共同スペースの中にいつもの自分の場所がそれぞれに確保されています。顔なじみの方と過ごしたり、テレビを見られる場所に移動されたり、思い思いに過ごしておられます。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室に入居者様が使い慣れた日用品や身の回り品を持ち込んで頂いています。自分の部屋で心地よく過ごして頂けるようにしています。また、個人で自由に使用できるトイレと洗面台が居室に設置してあるので気兼ねなく使用して頂けます。	入居時には今まで使われていた、馴染みの家具や装飾品の持ち込む事で利用者の大切な物に囲まれて過ごされるよう支援している。例えば家族写真、布団、衣装ケース、テレビ、時計、カレンダー等。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物全体がバリアフリー構造で、手すりも随所に設置してあります。歩行器や車椅子での対応も可能です。また入居者様の不安お和らげる為の表示等工夫しています。			

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム サンハートホーム

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム サンハートホーム

作成日 令和4年11月9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	19	面会も厳しく家族様と入居者様の関係が電話等による為、なかなか難しい。	早く面会が出来るようになればいい	出来るだけ、入居者様の状況を密に連絡し家族様に面会に来て頂くようにする。	1年
2	49	外出が少ない	2ヶ月に1回は外出する。	近場で、ドライブをする。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。